

佐渡金銀山ガイドンス施設

きらりうむ佐渡

4/20(土)オープン



展示室イメージ

3つのシアタールームがあり、ここを順番にめぐすることで、佐渡金銀山の長い歴史と価値を理解できる仕組みになっています。シアターごとに異なる、工夫を凝らした演出が見どころです。（観覧の所用時間は30分程度）



施設の完成予想図



完成間近のきらりうむ佐渡（写真は昨年末時点）

相川 あいかわらばん 瓦版

第37号

2019年1月25日発行

《編集・発行》

佐渡市産業観光部

世界遺産推進課

電話 0259-63-5136

FAX 0259-63-6130

所在地 佐渡市相川三丁目浜町18-1

開館時間 8:30～17:00
（最終受付16:30）

休館日 12/29～1/3

入館料 無料（展示室観覧は有料）

展示室観覧料

大人／300円 小・中学生／150円

団体（15人以上）の場合

大人／250円 小・中学生／100円

*[4/20～4/26]は展示室の観覧無料。

*駐車場無料。

*レンタサイクルあり。

これまでお知らせしてきた建設中の佐渡金銀山ガイドンス施設「きらりうむ佐渡」がいよいよ完成します。

きらりうむ佐渡は、佐渡金銀山見学の玄関口として、金銀山のあらましを分かりやすく解説し、来訪者が現地を訪ねるための情報発信をおこなう施設です。施設内にある展示室では、最新技術を活用した臨場感あふれる大型映像やプロジェクションマッピングを中心に、佐渡金銀山の価値と魅力を紹介しています。また、ガイドマップやガイドアプリなどを活用して、遺跡めぐりやまち歩きに役立つ情報も発信していきます。

施設の愛称「きらりうむ佐渡」は、約560通の応募の中から、新潟市在住の小学生の案が選ばれました。この愛称には、「きらりと光る佐渡金銀山情報発信の館」という思いが込められています。

愛称も決まり、今年4月のオープンに向けて、施設の建設工事も大詰めを迎えています。4月20日には、オープニングセレモニーも開催される予定ですので、ぜひお越しください。

🚗 調査の範囲



相川の駐車場について調べました。



上町の通り（京町通り）



下町の通り（相川往還）

🚗 調査の目的・今後のとりくみ

昨年9～11月にかけて、相川市街地の住宅街を中心に、駐車場の実態を知るための調査を実施しました。

調査の目的は、現在進めている鉱山町の町並み保存を、より効果的におこなうことです。町並み保存と駐車場は密接な関係にあり、駐車場のあり方が町並みの印象を左右します。一方、歴史ある鉱山町で快適に暮らすには、自動車は必要不可欠であり、それにともない当然駐車場も必要となります。また、駐車場は住人だけでなく、相川へ訪れる人にとっても重要です。

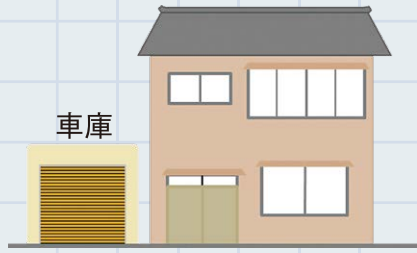
将来、佐渡金銀山が世界遺産に登録されれば、相川で駐車場を必要とする人の数は今よりも増えます。ですが現在、駐車場が不足しているという意見も複数あります。駐車場が不足したまま人が増えれば、駐車場をつくるために建物が解体されるかもしれません。さらには、路上駐車が頻発して交通障害の原因になる恐れもあります。

そのため、左ページにまとめた調査結果をもとに、私たちの生活に必要な駐車場の確保と、町並み保存を両立させるための取組みを考えたいと思います。今回の調査では、今の相川に駐車場がどのくらいあり、どのように使用されているのかを調べました。調査結果をふまえて、今後の課題として新たな駐車場の整備が必要なのか、また、町並み保存に貢献できる駐車場のあり方とはどのようなものなのかを考えていく予定です。

🚗 駐車場を6つのタイプに分けて調査

*イラストは一例です。

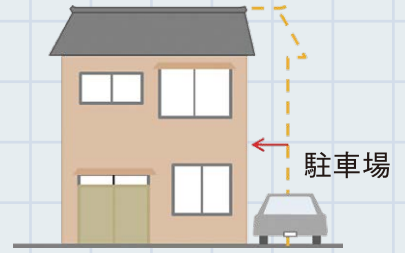
① 独立した車庫



② 建物の一部を車庫に改修

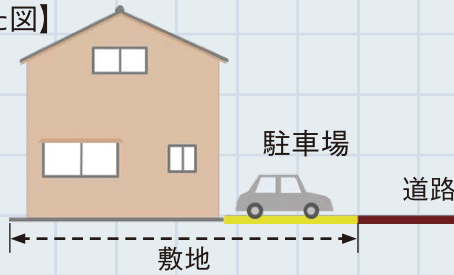


③ 建物や塀の一部を撤去

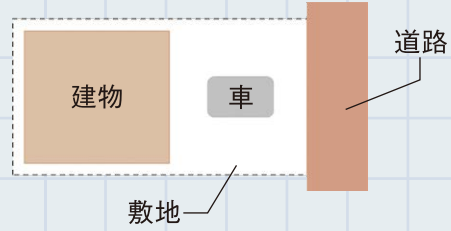


④ 建替や新築の際に建物を敷地奥に建て、道路側の敷地を駐車場として利用

【横から見た図】

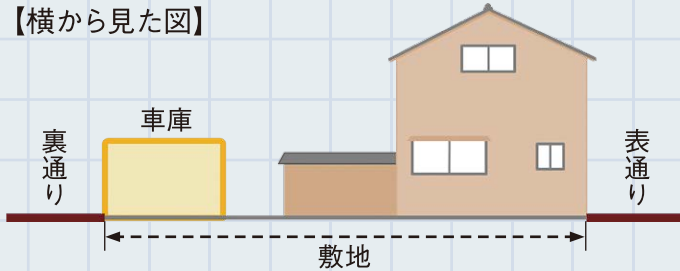


【上から見た図】

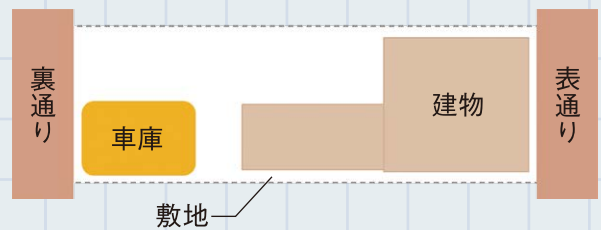


⑤ 表通りから裏通りまで敷地が続き、裏通り側に駐車場がある

【横から見た図】

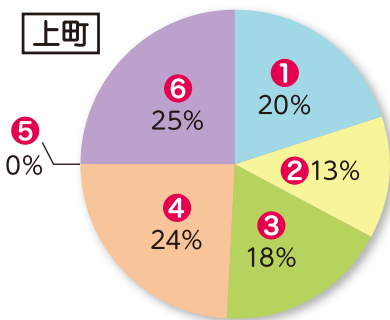


【上から見た図】

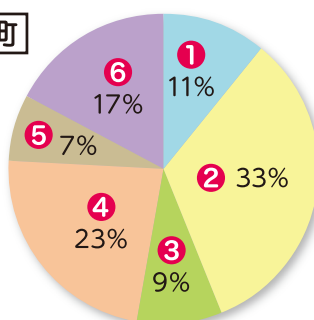


⑥ 建物跡地（空き地）を駐車場として利用

上町



下町



①～⑥の割合

通りから目視するほか、可能な範囲で近隣住人の方に聞き取りをおこない、駐車場を①～⑥に分類しました。(通りから見えない場所などは未調査です)

調査結果から分かってきたことの一例

① 上町と下町とでは、駐車場利用の傾向が異なる。

【例】・下町は上町に比べて「②建物の一部を車庫に改修」の割合が多い。

・上町には「⑤表から裏まで敷地がつづき、裏通り側に駐車場がある」は確認できない。

② 空き地や空き家を、駐車場として上手く使っている。

【例】 空き家になった隣家を車庫にして利用。／近隣住人が複数人で空き地をシェア。

③ 空き地は駐車場以外の用途でも活用され、全く利用されていない空き地は意外と少ない。空き地よりも深刻なのは、全く利用されていない空き家であることを再確認。

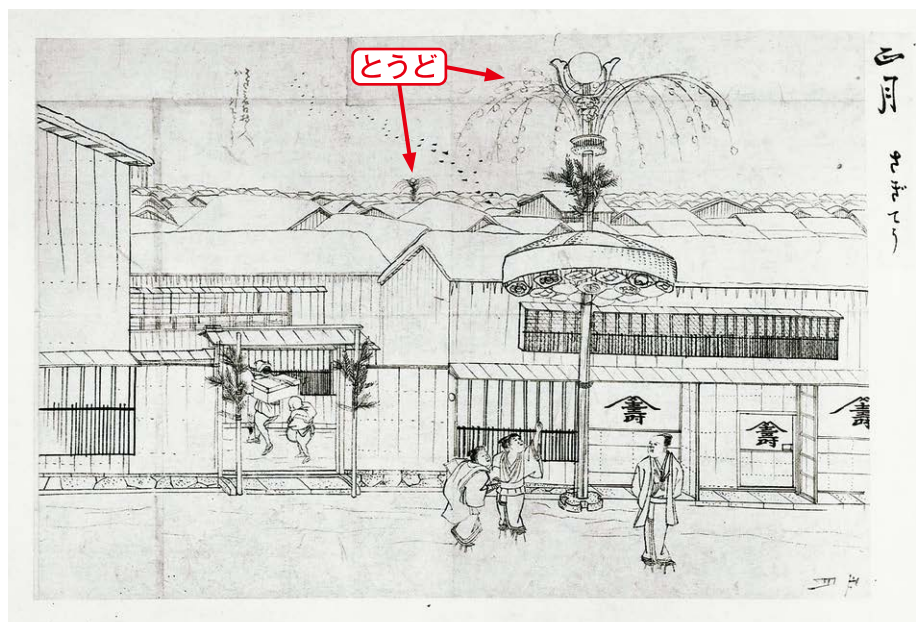
相川の今昔

正月の行事 さぎちょう

天保年間(1830～1844)の相川の年中行事を描いた『天保年間相川十二ヶ月』から「正月 さぎちょう」を紹介します。

「さぎちょう」とは、いわゆる「どんど焼き」です。この絵図の解説によると、江戸時代の相川では、1月11日の早朝に、町々に「とうど」というものを立てていました。1月14日の朝には、その「とうど」を浜に持ち出して、家々の正月飾りや松と一緒に燃やしました。燃やす時間は朝8時と決まっていたようです。「とうど」のことを「さぎちょう」ともいい、地域によって呼び名が異なります。

「とうど」を燃やす際に、子供が書初紙を竹に挟んで一緒に燃やして「とうどやさぎちょう」と大声で囃したそうで、これには字が上手く書けるようにという願いが込められています。また、「とうど」を燃やす火で餅やすめるめを炙って食べて、無病息災を祈願しました。



『天保年間相川十二ヶ月』より

「正月 さぎちょう」(佐渡市蔵)

天保年間の相川の年中行事を描いた絵図の1枚です。町ごとに「とうど」を立てています。「とうど」の丈は屋根よりも高く、松などの飾りがあしらわれています。「とうど」の真ん中あたりにある笠のような飾りは、5色の紙を袋状に成形し、それを笠の内側に敷き詰めました。そこには様々な刺繍が施されたようです。

周囲の町並みに目を移すと、屋敷の門にも松が飾られています。たくさん描かれた家々の屋根には雪が積もり、軒先には氷柱も描かれています。

ひとことメモ 相川金銀山の正月行事

江戸時代の文献によると、「金銀山への登り初め」として、年が明けて初めて金銀山へ登る際には祈祷札を坑内に納めました。正月行事の内容は時代によって異なったようですが、奉行所の役人が金銀山へ登ることもあったようです。

今月のにゃんじー

「金山でソリ遊び」

冬眠中の友達を誘って
ソリ遊びです。



第38号

3月25日刊行予定